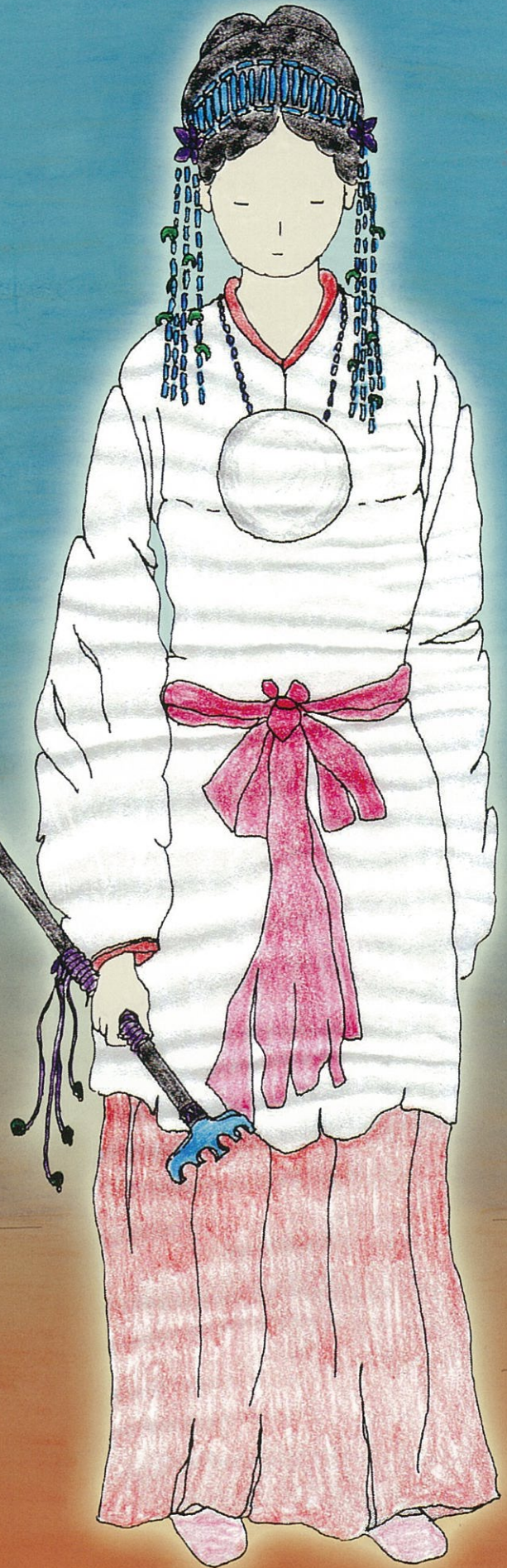


古代人はなにを着ていたか

古代人はなにを着ていたのか、
人々は様々に想像してきました。
はたして、
どうだったのでしょうか——



2016.7.12 tue — 9.25 sun
古代の森会館

入場料／一般：100(80)円 小・中学生：50(40)円

※()内は20名以上の団体料金です。

主催／公益財団法人 唐津市文化事業団 共催／唐津市教育委員会
後援／FMからつ86.8MHz

ギャラリートーク▶ 7月16日(土) 10:00～ 参加費：無料 (※別途、入場料は必要)

【お問合せ】古代の森会館 唐津市鏡1826-2 TEL.0955-77-0510
■開館時間 9:00～17:00 ■休館日 月曜日

古代人はなにを着ていたか

1. 想像された古代人の「衣」の世界

古代人の衣のイメージが定着していく様子を考える。

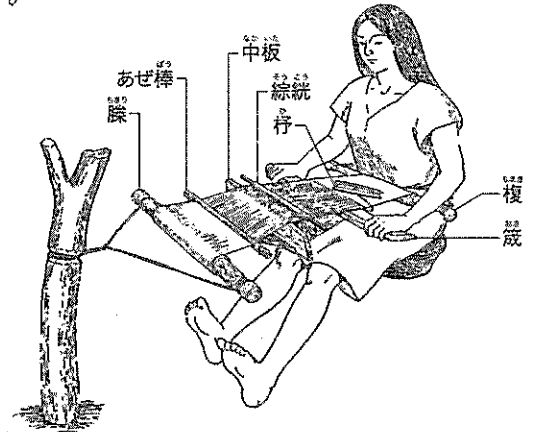


2. そのもととなったもの ～倭人伝の記載から～

弥生時代の衣服の代表的なものとしてされる「貫頭衣」を確認する。

3. 遺物からのアプローチ ～編む、織る～

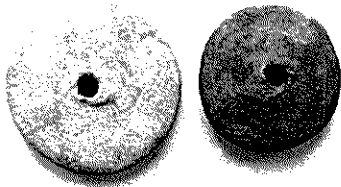
編むことと、織ることの違いとその意味を調べる。



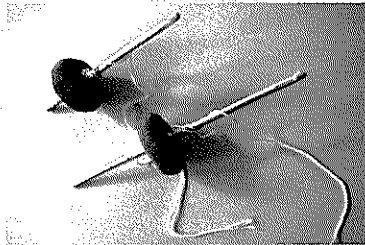
『図解 技術の考古学』より (潮見 1988)

4. 道具は語る

繊維を紡ぎ、糸にする紡錘車、それをどのように使うのかを事例で示す。



紡錘車〈菜畑遺跡〉



紡錘車の使用復元 (糸に撚りをかける)

5. 虚像と実像 ～卑弥呼をめぐる衣の世界より～

画像の定着、虚像と実像が混じり合う、その復元の姿をしてみる。

古代の森会館

唐津市鏡1826-2 TEL.0955-77-0510

■開館時間 9:00～17:00 ■休館日 月曜日